

連載 講座

地域防災実戦ノウハウ(36) —実践的な防災訓練を目指して (その13)—

Blog 防災・危機管理トレーニング
主宰 日野 宗門

1. 首長を対象としたアピール性のある状況創出型訓練

これまで紹介してきた状況創出型訓練は、意思決定能力の向上に重きを置いたものであり、外部へのアピール性(=絵になる訓練)を意識したものではありません。

しかし、例えば、都道府県などの主催で、市町村長を一堂に集めて行うような訓練の場合アピール性は必要ないでしょうか?市町村長が一堂に会するような訓練はほとんど行われていませんが、昨今、トップの危機管理能力が重視されはじめている状況からすると、将来的にはこのような訓練が広まる可能性があります。

さて、首長が一堂に会するわけですから、当然マスコミの注目を集めます。むしろ、首長自身が住民等を意識し、外部へのアピール性を要求することも考えられます。

そこで、今回は少し趣向を変え、アピール性を有しつつも訓練目的から逸脱しない(首長を対象とした)状況創出型訓練(状況シナリオ創出型訓練)の方法を紹介します。

この訓練も、これまでの状況創出型訓練(状況シナリオ創出型訓練)と同様、次の2段階から構成されます。以下では、それぞれの段階でのアピール性を高めるための工夫について述べます。

- ①「対応記入票への記入」段階
- ②「検討会」段階

2. 「対応記入票への記入」段階でのアピール性の工夫

この段階では、以下の点に留意し、アピール性を高めます。

- (1) 図上訓練には首長のほか随員にも参加してもらう

図上訓練には、首長のほか随員(防災担当課長、秘書等)にも参加してもらいます。そのことにより、目新しさとリアリティを持たせることができます。

なお、随員には、可能な限り首長の参謀となる職員(防災担当課長等)を含めるのが望ましいと考えます。前述の理由のほか、しり込みする首長の参加を促す効果が期待できるからです。その旨、事前に案内しておくとい良いでしょう。

(2) 自治体ごとにチームを編成する

自治体ごとに、首長と随行員(防災主管課長、秘書等)でチームを編成します。首長用対応記入票を用意し、チーム構成員で協議しながらそれを完成させます(※)。

この場合、地域防災計画、対応マニュアル等、資料は自由に持ち込むことができるものとします。

(※)「チーム構成員全員分の対応記入票を用意し、各人が協議しながら記入する」方法も考えられますが、慣れるまでは首長用対応記入票のみを完成させる方法が良いでしょう。

(3) 所属自治体の関係職員との携帯電話等でのやりとりを可とする

訓練に参加したメンバーだけでは対応記入票を埋めることができないときは、持参の携帯電話等により、所属自治体で待機している防災関係職員などとやりとりすることを可とします。これにより、従来にない訓練シーンの演出ができます。

3. 「検討会」段階でのアピール性の工夫

この段階では、以下の点に留意し、アピール性を高めます。

(1) 記入内容の発表(プレゼンテーション。以下「プレゼン」と略す。)

進行管理者から、対応記入票にある時間区分(0～30分、30分～1時間など)ごとにチームを指名し、対応記入票への記入内容を発表(プレゼン)してもらいます(※)。

この場合、進行管理者は、以下の点に留意します。

○進行管理者は、訓練参加チームについて最低1回は指名する

○進行管理者は、プレゼンの制限時間を設定し、その時間内で行わせる

(※)進行管理者は2の対応記入票回収後の休憩時間中に、各チームの記入内容をチェックし、時間区分ごとの「指名」チームをあらかじめ選定しておきます。

(2) プレゼン終了後の質疑応答、実演等

指名チームのプレゼン終了後、進行管理者を軸に以下のように進行します。

① プレゼン内容(記入内容)に関する質疑応答

プレゼンチームと進行管理者及び他チームとの間で、プレゼン内容(記入内容)に関する質疑応答を行います。

② 必要に応じた実演の指示

プレゼン内容(記入内容)に含まれる「意思決定」、「行動」(例:情報収集伝達、広報など)については、必要に応じ実演を指示します。

実演指示は、原則として進行管理者から行います。その際、進行管理者から他チームメンバーに対し、その実演に関係する役割を付与するなどすれば、よりアピール性が高まると思います。

ます。例えば、

ア. 指名されたチーム(の首長)が災害対策本部会議の議長役の場合、他のチームメンバーには、それ以外の本部員(あるいは本部事務局メンバー)役を付与し対応させる

イ. テレビを通じた県民への呼びかけ、あるいは、記者発表シーンなどでは、進行管理者は、他チームメンバーには記者役などを指示する

なお、役割を付与することが訓練効果上適当でない場合は、他チームにはプレゼン内容に対する評価あるいは「自チームだったらこうする」という実演を行ってもらいと良いでしょう。

③首長を主対象とした訓練であることから、①、②におけるプレゼンや質疑応答等は、参謀者まかせにしないためにも、半分以上は首長が発言するように義務付けることにします。

(3)アドバイザー(コメンテーター)の活用

より実践的で多面的な意見を得て検討会を活性化させたいと考える場合は、被災経験のある自治体の首長等をアドバイザー(コメンテーター)にお願いすることも考えられます。

例えば、以下のような内容で随時アドバイス(コメント)をいただくのも訓練にリアリティを添え、アピール性を高める上で効果的と思われます。

- 当該時間区分において首長として行うべきこと(役割)
- 当該時間区分における首長の活動の着眼点、ポイント
- 当該時間区分において首長として苦しんだこと
- 当該時間区分において実際に行った(行えた)活動
- 首長が普段から考えておくべきこと
- その他(反省点、教訓)